

石社研 2024年 研究のまとめ

石社研では、今年度も研究主題を「追究を通して、主体的に社会とかかわる力を育む社会科学習の創造」とし、研究・実践を推進してきた。今年度は継続研究2年次計画の2年目にあたる。

今年度の第二次研究協議会では広社研が「**振り返りを意識した主体的に学習に取り組む態度の涵養**」をテーマに、実践・検証を行った。広社研では「**自己の学びを振り返り、見通しをもたせる単元構成の工夫**」「**疑問を追究する子どもの育成**」「**子ども一人一人の学びを的確に見取る『評価』**」を重点として掲げ、ICTを利用して子どもたちの振り返りの蓄積を行い、子どもたちへの指導や評価へ生かしていくことを目指した。

広社研が実践した3本の授業から成果を具体的に考察したい。**3年吉川実践**では、北広島市の副読本にも掲載され、校区内にある工場を取り上げ、地域産業の特色をとらえる授業であった。単元の始めにこの工場についてのイメージマップをなかなか書けなかった児童も、単元が進むにつれて書く内容が増えていったことから、社会的事象を多角的に獲得できる単元構成になっていた。**4年中村実践**では、自然災害にそなえた取り組みを学び、避難所運営で大切なことは何かを考える授業であった。広社研の研究のキーワードである「振り返り」を充実させ、単元を通して自身の振り返りを見返すことで、学習内容を自分事として捉えることにつながっていた。**4年畑中実践**では、地震に備えて自分たちに何ができるかを子どもたちに考えさせた授業であった。前時までの振り返りの蓄積をもとに、授業の導入の工夫をすることができ、学習の流れや見通しをもちやすかった。また、ゲストティーチャーによる揺さぶりが、子どもたちの思考を深めるきっかけになっていた。

課題としては、「振り返りを単元・毎時間の学習につなげていく」ことと、「その単元・毎時間の学習を子ども達にとって豊かにしていく」ことの両立であろう。振り返りの蓄積にICTはとても有効である。一方で、振り返りの「内容」を豊かにしていくためには、子ども達の学びが豊かでなければならない。子どもの思考の筋道を踏まえた発問・資料・単元構成などを吟味した学習と振り返りを往還することで、社会科学習を深め、主体的に学ぶ子ども達の姿につながっていくのではないかな。

各市町村においても充実した授業実践が見られた。**江社研6年植木実践**では、「再考」の場面を設定し、グループで話し合う中で子どもたちが変容していくことを見取ることができた。**恵社研3年向井実践**では、「学びの地図（単元の指導計画）」を提示し、子どもたちに目的を意識させ、社会的な見方・考え方が深まっていった。**千社研5年齊藤実践**では、今年の課題でもあった「米不足」を扱い、日本の輸出入やゲストティーチャーの話などから、子どもたちに複数の視点を持たせた思考を深めることができた。**石社振5年高橋実践**では、地域の特色を生かして米づくりについての学習に取り組んだ。学校田を活用し、農業体験と学習内容を結びつけたり、農家さんにゲストティーチャーとして話をさせていただいたりして、子どもたちが主体的に学習に取り組めるようにした。

今年度広社研を中心に、各市町村の実践・研究が積み重ねられたことで、主題に迫ることができたと考える。この成果を礎に、次年度、新研究を立ち上げる。今後も各市町村推進委員と連携を深め、全ての部会員の皆様が、共通理解に立って実践・検証できるように研究を推進していきたい。

最後になりましたが、今年度も、より良い研究協議ができたのは、各市町村事務局を中心とした部会員の取組と研鑽によるものです。授業をされた先生方、提言をされた先生方、広社研の先生方、素晴らしい検証授業と貴重な提言に心から感謝いたします。

（文責 阿部 純一）